

### (3) 流産・死産におけるグリーフケアについて

保健看護学部 保健看護学科 教授 片岡久美恵

流産・死産という周産期における喪失は、単に子どもを失うだけではなく、子どものいる自分や新しい家族の形を失うということを意味している。女性の年齢が高齢化すると、流産率は高くなることも知られており、晩婚化・晩産化が進むわが国では、周産期の喪失を経験する女性の割合はさらに増えることが見込まれている。また、流産・死産を経験した女性は、うつなどの精神的変調を起こす危険性が高いことは明らかとなっていることから、流産・死産における精神的な支援であるグリーフケアは重要である。

流産・死産におけるグリーフケアは、個別性が高く、そのニーズを満たすために、臨床では様々な取り組みがなされている。そして、その対象は女性のみでなく、パートナーはもちろんのこと、そのきょうだいへも支援の手を差し伸べることが求められている。このような支援を実現するためには、看護職だけでなく多職種間で連携し、かつ継続的な支援のシステムを構築が必要である。